



平成30年4月24日

佐賀県内経済情勢報告

平成30年4月

財務省福岡財務支局 佐賀財務事務所

<お問い合わせ先>

佐賀市駅前中央3丁目3番20号 佐賀第2合同庁舎
財務省福岡財務支局 佐賀財務事務所 財務課


電話 (0952) 32-7161

ホームページアドレス

<http://fukuoka.mof.go.jp/html/saga/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（30年1月判断）	今回（30年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

（注）30年4月判断は、前回30年1月判断以降、30年4月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は持ち直しているほか、生産活動は持ち直しており、雇用情勢は改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（30年1月判断）	今回（30年4月判断）	前回比較
----	-------------	-------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	緩やかに持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	改善している	改善している	

設備投資	29年度は前年度を上回る見込み	29年度は前年度を下回る見込み	
企業収益	29年度は増益見込み	29年度は増益見込み	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を上回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに景気回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性などに留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、衣料品は前年を下回っているものの、飲食料品は惣菜等が好調なことから、全体では前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、引き続き好調となっている。

乗用車販売は、軽自動車は前年を上回っているものの、普通車、小型車は前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

専門量販店販売は、ドラッグストア販売は花粉対策商品等が好調なほか、ホームセンター販売は季節商品が好調であり、家電販売はテレビ等が好調なことから、全体では前年を上回っている。

このように、個人消費については、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 競合店の影響により客足が少なく、冬物衣料のクリアランスセールが低調であったものの、足元では春物衣料が堅調に推移している。(百貨店)
- 中食需要の増加に伴い、惣菜の売上が好調であった。(スーパー)
- 乗用車販売は、新型車販売の効果が一服したため、全体では前年を下回っている。(自動車販売団体)
- 鼻炎薬やマスクなどの花粉対策商品の売上が好調であった。(ドラッグストア)
- 気温が低かったことから、暖房器具や灯油の売上が好調であった。(ホームセンター)
- 市場拡大に伴い、有機ELテレビが好調であったほか、買替えや新規需要により携帯電話が好調であった。(家電販売店)

■ 生産活動 「持ち直している」

生産活動を主要業種で見ると、食料品では、受注が好調であることから高操業が続いており、金属製品では、国内・海外ともに受注が増加しているなど、概ねの業種で高操業が続いている。

このように、生産活動については、持ち直している。

- 受注が好調であることから、生産はフル操業が続いており、売上も好調な状況が続いている。(食料品)
- 国内受注は軽自動車为好調で、海外受注は引き続き中国向け为好調なことから、売上は好調に推移しており、生産は、高操業となっている。(金属製品)
- 国内・海外ともに、データセンターやAI、スマートフォンなどの需要が増加していることから、受注は好調で、生産が追いつかないほどの高操業が続いている。(電子部品・デバイス)

■ 雇用情勢 「改善している」

有効求人倍率は、引き続き高水準で推移している。新規求人数は、卸売業・小売業等で減少していることから、全体では前年を下回っている。新規求職者数は、前年を下回っている。

このように、雇用情勢については、改善している。

- 人手は不足している。対策として生産設備の自動化を行うことで、作業が省力化した。(生産用機械器具)
- 募集しても応募状況は悪く、従業員数は不足している。対策として電子マネーの導入を行った結果、レジ業務の省力化となった。(小売業)
- 有効求人倍率は、引き続き上昇傾向にある。雇用環境は、正社員の有効求人倍率が高水準を維持していることなどから、良い状況が続いている。(労働局)

■ 設備投資 「29年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年1-3月期

29年度の設備投資額は、製造業は前年比1.0%の減少見込み、非製造業は同6.2%の減少見込みとなっており、全産業では同2.7%の減少見込みとなっている。規模別にみると、大企業、中小企業は減少見込み、中堅企業は増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「29年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年1-3月期

29年度の経常利益(「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」を除く)は、製造業は前年比9.0%の増益見込み、非製造業は同9.7%の減益見込みとなっており、全産業では同2.9%の増益見込みとなっている。規模別にみると、大企業は増益見込み、中堅企業、中小企業は減益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年度を下回っている」

公共事業を公共工事前払金保証請負金額(29年度累計)でみると、前年度を下回っている。

(その他項目)

○ 企業の景況感を法人企業景気予測調査(30年1-3月期)の景況判断BSIでみると、30年1-3月期は、「下降」超に転じている。先行きについては、30年4-6月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

○ 企業倒産の件数は、前年を上回っている。

○ 消費者物価(佐賀市)は、前年を上回っている。